

I セット5 過程方式

5年A漢字

均

指導上の留意点

必要におうじてお読みください

1. 音訓

音：キン
訓：なし

同音の漢字「金①、今②、近②、禁⑤、勤⑥、筋⑥」

(○数字は、配当学年)

読みかたは、音読みの「キン」だけである。「均」を構成要素とする漢語を通して指導することになる。

小学生向けの学習漢字辞典のなかには、訓に「ひと-しい」「なら-す」「ととの-える」などをあげているものがある。これらは、「常用漢字表」の音訓欄にないものであり、読みかたの指導対象とするのは、適当ではない。

「ひとし」など名乗りでつかわれることがある。ただし、新出漢字としての「均」の音訓は[キン]だけであることは、おさえておきたい。

2. 意味

ほんらいの意味	1 地面をならす。たいらにする。	平均する。
基本的な意味	2 数量などをそろえる。ひとしくする。 おなじにする。 数量などがそろっている。ひとしい。	均一。 均等(する)。 平均(する)。
派生した意味	3 つりあいがとれる。バランス。	均衡。均整。 平均。

【均】のほんらいの意味は、**1**《地面をならす》だが、現代語の基本的な意味は、**2**《そろえる》、《そろっている》にある。「平均」「均等」「均一」などの語は、この意味でつかわれる。統計(算数や理科など)でつかわれる「平均」もここに位置する。転じて**3**《つりあいがとれる》の意味が派生し、「均衡」「均整」などの語がつかわれている。

小学5年の段階では、**2**の意味とコトバを中心にしておさえることが望ましい。

「平均」「均等」「均一」などの語に共通する意味のイメージを一語でとらえるには、「ならす」「そろえる」「ひとしくする」「おなじにする」のどれが適当か、学級の実態に応じた検討が必要である。

1「ならす」というコトバは、《高低やデコボコをなくしてたいらにする》という意味がある。「砂場の砂をならす」「運動場の土をならす」など、経験的に理解できる子がいるかもしれない。しかし多くの子の共有語となっているか検討が必要である。



「nara」には、「平城山」「奈良」に代表されるように《たいら》の意味があり、他動詞「ならす」(nara-su)は《たいらにする》、その連用形から形成された名詞「ならし」は《たいらにすること。平均すること。平均》という意味をもつ。「会費は、ならして〇〇円」などの用法があるが、小学5年には、なじみがあるとはいえない。

なお、「ならず」と同訓のコトバには、「果実を実らせる（ならず）」「ある状態・環境になれさせる（慣らす）」「動物をしつける（ならず）」「音をひびかせる（鳴らす）」などがあるが、どれも意味が異なる。

2 「そろえる」（そろようにする）というコトバは、いくつかの意味にわかれる。不用意に強調すると、混乱を招くおそれがある。

「均」という字のもつ《そろえる》は、《数や量などにふぞろいがないようにすること》であって、現代語の「そろえる」のすべての意味に一致するわけではない。「均」は「ふぞろい」を前提にしていることを、ふまえておきたい。

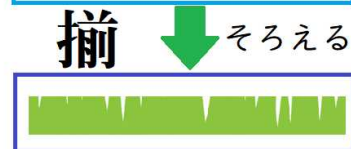
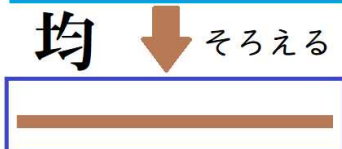
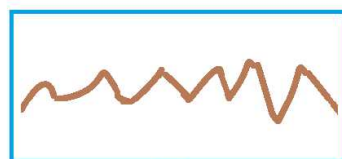
参考までに「そろえる」の用例を集めてみる。このなかには「均」の意味に一致しないものが多くあることがわかる。「均一にする」「均等にする」「平均する」などの語に置き換えることができる場合と、そうでない場合とで判別できるだろう。

<p>(ア) 二つ以上のものの形、大きさ、程度などを同じ状態にする。きちんとあわせる。一致させる。</p> <p>〔類義字〕均, 揃</p>	<p>ひもの長さをそろえる。 大きさをそろえる。 高さをそろえる。 角度をそろえる。 製品の質をそろえる。 つぶをそろえる。 しごとの量をそろえる。 足なみをそろえる。 声をそろえる。 口をそろえて言う。 着ている服のガラをそろえる。 部屋の色調をそろえる。</p>
<p>(イ) ととのえる。整然と並べる。</p> <p>〔類義字〕整</p>	<p>道具をそろえる。 条件をそろえる。 両手をひざの上にそろえる。 脱いだクツをそろえる。</p>
<p>(ウ) ばらばらになっているものをあつめる。前もって用意する。備える。</p> <p>〔類義字〕調, 備</p>	<p>遠足に必要なものをそろえる。 人員をそろえる。 資料をそろえる。 全集をそろえる。 とりそろえる。</p>

漢字「均」と「揃

「そろえる」を「揃える」と表記することがある。「揃」[セン]は常用漢字表にない字であり、指導対象外である。この字は、果実などがよく育ち、実をつけるようにと枝を切りそろえる意味の「剪定」[センテイ]と通じ、「きる。きりそろえる。切断する」という意味をもつ。そのことから「そろえる」の訓があてられた。

同じ、《そろえる》という意味だが、「均」と「揃」は、ニュアンスがちがう。

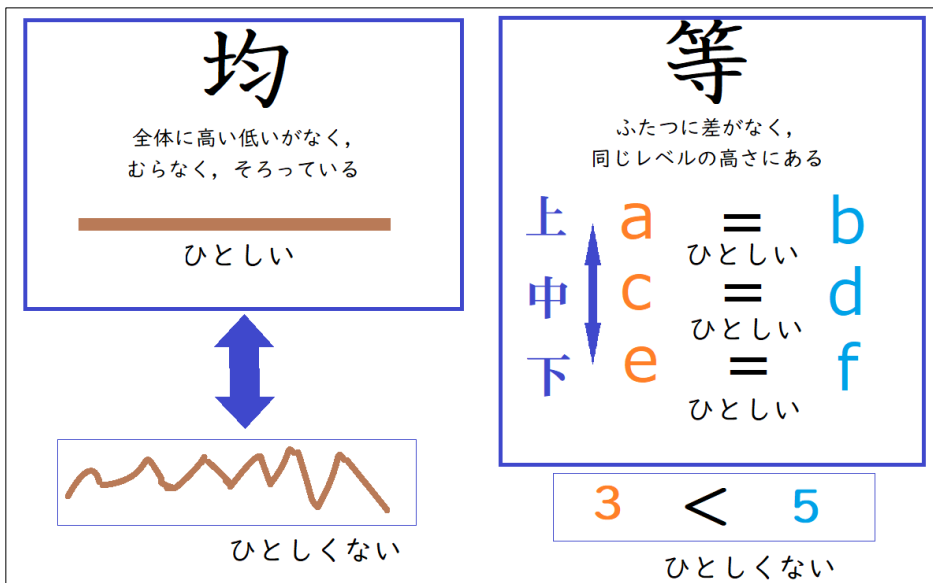


2 「ひとしい」というコトバは、いくつかの意味にわかれる。

(ア) 多くのことが全体にむらなくそろっている。でこぼこがない。	ひとしく国民は、権利をもつ。 みなひとしく、歳をとる。
(イ) 形状、性質、状態、程度、数値などを比べて、差がなく、同じである。	二辺の長さが等しい。 三人に等しくなるように分ける。
(ウ) 同じようである。よく似ている。	サギに等しい行為。 試合内容は、負けたに等しい。

「均」があらわす2 《ひとしくする》, 《ひとしい》は、(ア)に通じる。一方で(イ)(ウ)は、通常「等しい」と表記する。

漢字「均」と「等」

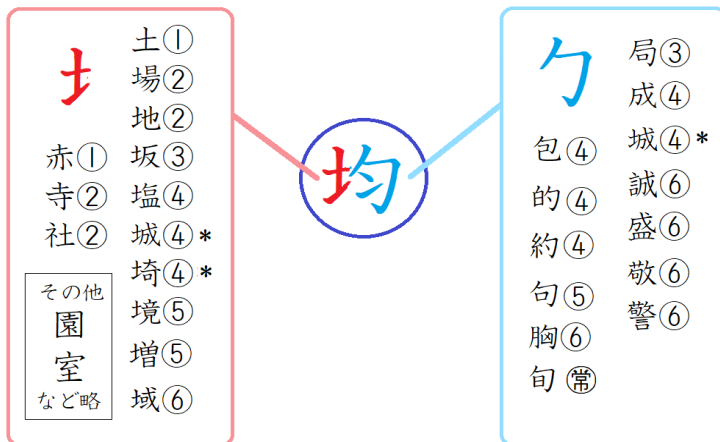


3. 字形

構成要素の学習経験の確認

★既習漢字の「的」「約」の「勺」とまぎらわしい。

* 新学習指導要領で4年配当となった字。
(○数字は、配当学年)



「勺」(つつみがまえ)は、多様な字形がみられることからていねいにあつかうことがのぞまれる。とくに「勺」「勺」「勺」の違いを意識を向けたい。常用漢字表には、このほか「勺」「勺」「勺」などもある。

評価における許容例



4. 漢字語（意味・接触体験の確認・価値）

指導に重点をおきたい語

【平均】		平（ならす）＝均（ならす）
①	多い少ないや高い低いなどの差が少なく、そろっていること。 また、そのようにすること。	スープを平均に分ける。 品質を平均させる。
	いくつかの数や量の中間的な数値。 またその値を求めること。	平均より背が高い。平均値。 平均すると収入より支出が多い。
②	ほどよくつりあうこと。均衡。平衡。 バランス。	からだの平均を保つ。

新出漢字「均」の学習と、算数の「平均」の学習とを関連づけると効果的である。どちらの学習を前後とするかで、指導の展開は、大きく変わる。

（別掲の「均の指導例 2018年10月30日」は、算数より前に「均」を学んだ。）

5年算数「D データの活用」では、「平均の意味」、「測定した結果を平均する方法」を学ぶ。「平均」の意味を、「多いところから少ないところへ移動しならすという方法」や、「全てを足し合わせたのち等分するという方法」などに関連させて指導することになる。その際、漢字「均」の基本的な意味《ひとしい。数量などがそろっている》、《ひとしくする。数量などをそろえる》は、ふれておく必要がある。

なお、6年になると「平均値」（データの個々の値を合計し、データの個数で割った値）、「中央値」（データを大きさの順に並べたときの中央の値）、「最頻値」（データの中で最も多く現れている値）などを学ぶことから、「平均」を5年の段階で、ていねいに指導しておくことが求められる。

【平均気温】《ある期間の気温の平均値》

4年社会科「自分たちの県内の特色ある地域の自然環境」や、5年社会科「日本各地の気候の特色」について調べる際に、「時系列データ」としての「平均気温」のグラフを活用する学習経験をへている可能性がある。

【平均点】《テストなどの点数の平均値》

5年までには、この語を耳にしたり、ときには使ったりした子がいる可能性がある。算数「量的データ」としての「平均値」の学習につながるだろう。

【平均台】《体の平均をとる運動をするために用いる木製の台》

なじみある子が多いと予想される。幼児期あるいは低学年体育のころから「平均台遊び」や「平均台運動」の経験をもつ子がいるだろう。ただし「平均台」(balance beam)の「平均」は、「からだの平均を保つ」と同じ、②《ほどよくつりあうこと》という意味で、「均」の基本義《ひとしい》《ひとしくする》から遠いつかいかたといえる。

【均等】	均 (ひとしくする) = 等 (ひとしくする)
数量・状態などに多い少ないのちがいがなくて、みなひとしいこと。 また、ひとしくすること。	ボールを投げる間かくが均等である。 仕事を均等にわりふる。

学校図書『みんなと学ぶ 小学校国語』5年上巻(2015年版)には、可能動詞の「れる。られる」の語例として、「ケーキをうまく均等に分けられた」がしめされている。

2005年国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」で6年対象問題に「スイカをきんとうに分ける。」が出題されたが、正答率は「35.3%」だった。

小学5年生にとっては、なじみがうすい語のようだ。「～を均等にならべる」「～を均等にまぜる」「～を均等に配る」など身近な用例をもとに理解をはかりたい。学年進行とともに「教育の機会均等」「男女均等」などの語が正しく理解できるようになることが期待される。

【均一】	均 (そろえる) = 一 (そろえる)
金額、状態などがどれもみな同じであること。	均一な力がかきまわす。 ねだんを均一にそろえる。

町の小売店やスーパーマーケットなどでは、しばしば「〇〇円均一セール」を実施している。客にとりわかりやすい価格設定となっていることから、注目されやすい。また、「百円ショップ」を「百均」と呼ぶことも、こどもたちにはなじみがあるだろう。ただし、いまの子にとって、「百均」というコトバが全品「100円均一」であることから呼ばれるようになった由来まで知っているのは一部の子か、あるいは地域によるかもしれない。

なお、「一」を[イツ]と読む漢字語には、「同一、画一的、単一、統一」などで、これまでにふれている可能性がある。

将来獲得が期待される語

【均質】《数量に差がなくそろっていること》

【均分】《数量が平等にわけられそろっていること》

【均整】《つりあいごとととのっていること》。「調和と均整の美しさ」

【均衡】《つりあいごととていること》「収支の均衡と不均衡」

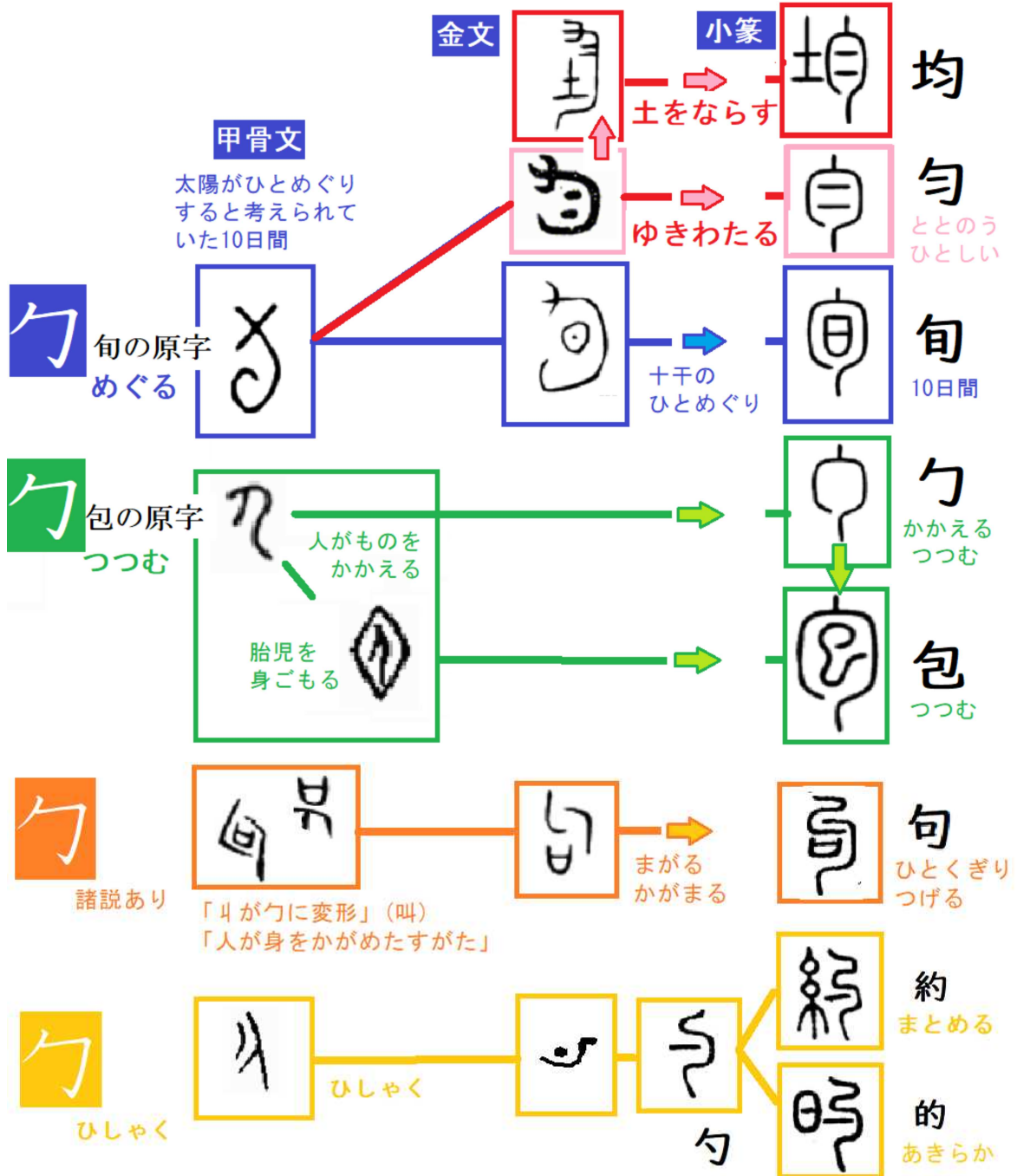
【均田制】《土地を国有とし、耕作者に均等に分けた中国古代の制度》「均田法」

5. 字源

定説は、「土+（音符）勻《ならす》」から《土地をならす》という意味になったというもの。指導にあたっては、それ以上くわしくとりあつかう必要はない。

なお、同じ「勺」（つつみがまえ）の字であっても、「包」「勺」「句」などとは字源が異なる。

参考までに、それぞれの原字と現行字体を一覧にする。



※字源説は、研究者によって諸説ある。

